

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0872005004		
法人名	社会福祉法人愛信会		
事業所名	グループホーム いちょうの木		
所在地	茨城県つくば市上岩崎835-6		
自己評価作成日	2021年1月10日	評価結果市町村受理日	2021年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0872005004-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0872005004-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年3月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ただ一つ、どこにでもある小さな幸せを大切に暮らしていけるように心がけております。四季の移ろいを感じ、季節のおいしいものを食べ、思い思いに生活を送る。その中で、お互いを思いやり、励ましあい、尊重し、協力して楽しい生活ができれば良いと考えお手伝いさせていただいております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域密着型の特別養護老人ホームが隣接するグループホームであり、運営推進会議や防災等は連携がとられている。近くの小学校や地域の方と交流を深め、地域に根差したグループホームとなっている。コロナ禍で現在はこれまでのような交流はできないが、近道を散歩したり、人の少ない公園やドライブに行くなど、工夫を凝らした外出支援がされている。室内ではDVDに合わせた体操や、趣味や談笑を楽しめるような配慮がされ、長い自粛生活を続けながらも、ひとり一人の思いに寄り添った支援を目指し、職員の努力が続けられている。  
\*新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、職員で作り上げた理念に沿って日々実践に取り組んでいる。	法人理念と事業所の理念を意識し、会議等で職員と再確認をする。開設から15年が経過。現状に合わせた理念を再検討したいと考えている。職員はひとり一人の思いに寄り添い、転倒等に配慮した見守りに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、特に交流なし	コロナ禍前は近隣小学生の訪問があり、学校行事に招待されたり、地域の祭りへの誘いを受けていたが、この1年は何もできなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は、施設で主催した介護勉強会等で、地域の方々にお越しいただき知識等の共有を図った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々からの意見を取り入れ、参考にしている。	敷地内の地域密着型特養と合同開催している運営推進会議は書面での開催となり、運営状況や行事報告を送付し、意見をいただく。区長や民生委員が交代したときには、施設内を案内したり、サービス内容について説明をし、ホームを紹介してもらえるようになっていた。	家族の参加が得られていないので、書面による運営推進会議の時期に合わせて家族にも書類を送付し、会議を身近に感じ、参加へのきっかけとなるよう働きかけることを検討していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設連絡会等で情報共有や、日ごろも電話等で連携は取っている。	介護保険証更新等は近くの支所に出向き、本庁の担当課とはメール、電話、FAX等でのやり取りが多いが、協力関係は構築できている。生活保護受給者の利用についても、生保担当課と連携がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内にポスターを掲示したり、該当行為かどうかを随時確認ができるようにしている。	隣接の特養と合同で委員会を毎月開催。拘束の有無を確認し、議事録を作成している。感染予防の為、研修担当が資料を作成し、全職員に回覧して周知を図っている。ユマニチュードについて、動画を見ながら学習した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での注意喚起や発生の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度利用者はないが、法人内研修を通して、必要な方へ活用できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って十分な説明を行い、不明点、疑問点がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族アンケートを取り、集計結果をもとに業務改善に取り組んでいる。苦情、要望解決のため第三者委員等の体制設置も行っている。	家族とは利用料の支払いで来所された時に話したり、SNSで写真を送り、日ごろの様子を報告している。顧客満足委員会で、12月に家族にアンケートを実施し、集計結果と対応を返している。入浴回数を夏場だけでも3回に、せめてシャワーでも、という意見があり、希望に添えるようにしたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をほぼ全体の業務に取り入れた運営を行うために職員会議の開催や随時意見を聞き、運営改善を行っている。	毎月のユニット会議では、事前に質問事項等を把握することで活発な意見交換ができています。人事異動や退職により、新しく入った職員からは新鮮な意見もだされる。利用者、職員共にユニットにこだわらない交流ができています。勤務時間による業務量や任務分担の違いについて話し合いをした。必要な物品等は担当者がチェックして購入を促す流れができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な自己評価の提出や面接の機会を設けており要望や労働条件の提示を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加推進。 今年度は、コロナ禍の為、資料回覧にて実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を中心に定例会の開催や勉強会、懇親会など行っている。今年度は、コロナ禍の為、電話等での連携が主である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集や場合によっては導入事前訪問など入居の前から関係作りを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報収集や場合によっては導入事前訪問など入居の前から関係作りを開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用契約に関しては他のサービス利用が妥当と思われる場合にはそのサービスを利用できるように支援している。 (他事業所との連絡調整など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活作業、掃除などを中心に出来る事への参加をしていただき役割を持った生活をしていただくようにしている。食事は職員も一緒に食べて関係性を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あくまでも在宅であるというスタンスを踏まえながら施設介護のメリットも加味した総合的な援助をご家族と一緒に出来るように連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係は、大事にして馴染みの方が来客した際の対応や外出の支援を行っている。今年度はコロナ禍の為、面会に一部制限をさせていただいている。	家族とはタブレットや窓越しでの面会となっており、何故画面の中や窓の外にいるのか理解できない利用者もいる。近所の方やサークル仲間だった方が、面会できない代わりに写真付きで手紙をくれ、御礼の電話をいれる支援をしている。理美容は移動美容室(車)を利用しているが、家族送迎で馴染みの床屋に行く方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットのメンバーは大きなひとつの家族と捉え、個々の役割などで助け合って生活できるように務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談や退居後の支援についてご家族と協議を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活していく上で本人のペース、趣向、嗜好、特性などを把握して個別な対応を実践している。	日頃の行動などから思いをくみ取る。くみ取った思いが合致した時はとても嬉しいとのこと。思いを言葉で伝えることができる利用者にも、なるべく希望に沿えるよう対応しているが、できないときには理由を説明している。申し送りノートや会議で職員同士の情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族には生活歴や仕事歴、履歴などを教えていただき、以前のサービス利用はできるだけケアマネや利用事業所、主治医などと連携して多くの情報を集められるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状況やできることできないことの把握に努め、生活を重視した過ごし方の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時などに十分に生活や心身についての状況をお伝えし、ケアの方針についてもお伝えし、ご意見をいただいている。即時性が求められる場合には電話等で連絡し、対応している。	担当職員がアセスメントをして課題を確認、ケアマネが家族に意見を求め、計画を作成している。日々のバイタル等に加え、朝昼夕個別の援助項目がチェックできるようになっている。夜間巡視の様子は夜間の介護日誌に記録している。種々の記録とユニット会議等で、サービスの達成度や満足度をモニタリングし、次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、看護記録などの個別ファイルと健康管理シート、介護日誌、申し送りノートなど情報共有できるように工夫し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問歯科等、個人々に合わせたサービスを提供できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の今までの生活を重視し、社会資源、地域資源とも有効に連携した暮らしが送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各人の主治医はそれぞれで選択していただき、今までかかっていた主治医を変更していただく必要は無いと説明している。かかりつけ医ともできるだけ連携を取ることができるように務めている。	協力医の訪問診療が月2回あり、薬の変更や受診が必要になったときには電話で家族に連絡。急を要さない報告は訪問時にしている。他医院受診の際には家族に情報書を渡したり、医師と直接電話で話し、職員が同行することもある。歯科治療や口腔ケアは訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の特養に看護師が在注しているため、定期的な巡回や、急変時の対応の助言をしてもらう体制を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	周辺の入院設備のある大きな病院とは常に関係性を維持している。入院した場合にも病院のソーシャルワーカーなどと情報のやり取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針及び看取りに関する要望をお聞きし、その中で介護事業でできることと越権、逸脱行為はできないという説明を行っている。重度化した場合には主治医、病院関係者、特養などと相談して対応するようにしている。	看取りは行っておらず、契約時に家族に説明して同意を得ている。重度化した時には、病院や系列の特養と連携して支援するが、看取りについての研修は毎年行っており、職員は知識を身につけている。特養との連携で看護職員が1日1回は見回り、状態を把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心とした内部研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	この地域は水害の恐れは少ない。火災、地震等の避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて地区のかたがた、市役所との話し合いも行っている。	消防署の指導を受け、隣接の特養と一緒に防災計画を策定、設備点検に合わせて年2回一緒に訓練をしている。職員入職時には通報訓練を行う。火災予防に重点を置き、コンセントも定期的にチェックしている。防災委員会でマニュアルを作成。寒さ対策の毛布や停電を想定したランタンなど備蓄し、リストも作成中。食料も備蓄し、今後、食材業者の非常食セット購入を検討している。災害時の避難場所として、市との協定を結んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症や老人性うつなど心身の状況に合わせて、一人ひとりに合った声掛けや対応をおこなっている。	利用者それぞれに個別の対応ができるよう情報を共有。利用者同士の関係にも配慮して支援している。管理者は慣れあいにならないよう、尊敬の念をもって対応するよう職員に指導している。個人情報に配慮して面会票は個票。契約時に写真や名前の掲載に関する同意を得ている。	

茨城県 グループホームいちょうの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けに自己決定の要素を盛り込むように務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人とその周りの人などとの調和を大事にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、白髪染め、整髪、など希望に添えるようにしている。訪問理容も導入している。 ご家族と一緒に美容室に行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けはもちろん一緒におこなうが、好きな物嫌いなものを把握して栄養が偏らないように工夫している。	食材業者のメニューと食材を利用。野菜切りや味見など、利用者もできることを行う。洋食や行事食、誕生日は希望に沿ったお楽しみメニューを選択している。ホットケーキやたこ焼きなどのおやつ作りを楽しんでいる。暖かい日にはウッドデッキでお茶を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理シートの活用で前の状況がすぐに分かるようになっている。その中で不足している場合などは工夫をして対応を検討し、実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は自分で。できないかたは支援を行いケアしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援はもちろんだが、排泄のパターンを把握して対応している。失敗を無理に改善するのではなく、失敗した時にどれだけ精神的ダメージを受けないようにしているかが大事と考え対応している。	日中はトイレでの排泄を支援。チェック表を活用して誘導し、なるべく失禁を減らすよう支援がされている。夜間は睡眠を重視し、パットの大きさなどを工夫している。便秘には、特養の栄養士の助言で運動や水分に注意しているが、ひどくなる前に薬で調整することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携、食事献立の工夫。運動などの働きかけ、水分摂取の励行など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はユニットごとに週2回実施している。個々の希望と体調に沿って入浴していただいている。	週2回の入浴を基本としており、別ユニットでの入浴も可能である。浴槽が大きく、希望があれば二人一緒に入浴することもできる。着替えは職員と一緒に準備している。季節の行事湯を行い、菖蒲は庭で栽培している。入浴剤は足元が見えるように濁らないものを使用している。脱衣所はガスヒーターで暖め、足ふきマットは個別に交換している。保湿剤等で皮膚の乾燥に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない夜の次の日はゆっくりと過ごしていただいたり、適当な運動やレクリエーションを行うなど、好きなように過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表と変更時の申し送りなどにより情報を共有している。服薬に関しても誤服薬防止の工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の遊びや脳トレ、塗り絵、レクリエーション。バスなどでのドライブなどを行って参加したい方が選択できるようにしている。役割は生活の中で確立している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は希望している方がいる場合にはご家族と協力してできるだけ要望に応えられるようにしている。今年度は、コロナ禍の為、一部外出制限をさせていただいている。	コロナ禍で人混みには行けないが、近所への散歩、人の少ない公園、ドライブなどに出かけ、ストレスがたまらないよう配慮している。馴染みの床屋を利用したい方には、途中、どこにも立ち寄らないことを条件に家族の送迎で利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況によりお金があると安心する方、逆に不安になる方などの特性を見て対応している。お預かりしている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己判断が難しい方に関しましては事前にご家族などと協議し、対応を決めております。基本的には支援できるようにしています。今年度より、テレビ電話の導入をしております。ご家族に活用いただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用しやすく誤認が減らせるような工夫をしている。また、季節に合わせた創作物や装飾を行っている。	自室がわかりやすいよう、表札とその人の作品を飾る工夫がされている。利用者は体操や脳トレ、会話を楽しみながら過ごしている。書初めや編み物を楽しむこともある。古くなった布団の解体を行ったときには「もったいない」「座布団を作れば」などの言葉が聞かれた。プランターで花や野菜を栽培、水やりなど行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間など所々に椅子などを配置して居室以外に過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には本人が慣れ親しんだ物や使い慣れた物を持ち込んでいただけるようお願いしている。	居室には洗面台とクローゼットが設置され、ベッドは個人のものを使用。畳のマットを敷き、布団で寝ている方は上げ下ろしも自分で行っている。冷蔵庫を使用している方は、家族も日持ちのよい食品を持参してくれるが、念のため、週1回は職員が確認をする。仏壇を置き、毎日お経をあげる方もいる。	

茨城県 グループホームいちようの木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で判断して行動できる方だけではなく、 難しい方へ適切な支援となるように支援方法を常に工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム いちちょうの木

作成年月日 : 2021年5月11日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への家族参加が得られていない。	時期に合わせ呼びかけ、参加へのきっかけを作る。	現状、コロナ対策で、集まれないので、書面での開催になってしまうが、会議案内時期に、家族への呼びかけ、連絡をする。 参加難しい場合でも、実施結果などの報告をする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。